

令和 5 (2023) 年 1 月 30 日

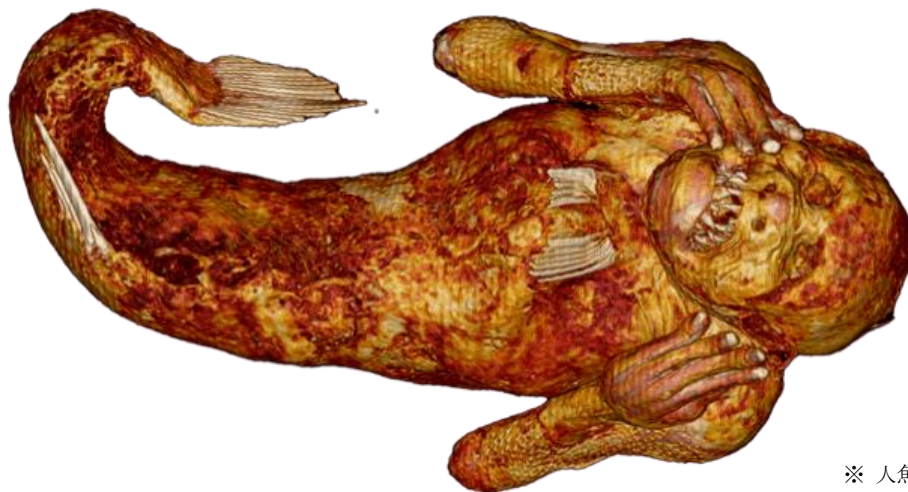
報道関係各位

学校法人加計学園
倉敷芸術科学大学 入試広報部

円珠院所蔵「人魚のミイラ」研究プロジェクト

最終報告会見のお知らせ

倉敷芸術科学大学（所在地：岡山県倉敷市連島町西之浦2640）は、2022年2月2日から岡山県浅口市にある円珠院が所蔵している「人魚のミイラ」を、宗教法人円珠院の協力の下、倉敷市立自然史博物館、岡山民俗学会理事木下浩氏と合同で、科学的に分析するプロジェクトを実施しています。このたび、その最終報告結果がまとまりましたので、以下の通り発表することをお知らせします。



※ 人魚ミイラ 3D VR 画像

日時

2023年2月7日（火） 17:00～

場所

倉敷芸術科学大学 3号館3F 会議室（予定）

内容 円珠院所蔵の人魚のミイラについて、X線CTによる内部構造の調査結果、皮膚の化学分析とDNA解析、ウロコの放射性炭素年代測定等についての結果、および、人魚のミイラの民俗学的な考察等について、報告を行います。

■当プロジェクトの詳細と沿革

仏像や宗教絵画を含め、信仰や伝統・文化は芸術と不可分な関係として歴史的にも長く存在してきました。本学はアート（感性）&サイエンス（理性）教育を新ビジョンに定め、知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材の育成を進めています。この度、県内に唯一その存在が確認されている人魚のミイラについて、ミイラを所蔵している宗教法人円珠院のご協力の下、倉敷市立自然史博物館、岡山民俗学会理事木下浩氏とともに、当大学の専門教員たちが、X線CT撮影や遺伝子分析など、それぞれの専門分野から徹底的に科学的分析を行います。化石哺乳類の専門家である加藤敬史教授が上半身、魚類学を専門とする山野ひとみ准教授が魚体部の形態分析を、分子生物学を専門とする武光浩史准教授が剥離物のDNA分析等を行うとともに、木下浩氏が民俗学の視点から調査・分析を担当しておりました

2022年2月2日 本プロジェクト開始

2022年4月4日 研究中間報告としてX線撮影、X線CT撮影でえられた画像解析結果を発表

2022年9月22日 高解像度のX線CT撮影を実施し、より詳細な分析のために最終報告延期を発表

■人魚のミイラについて

人魚は、全国各地で民間信仰の対象として古い歴史を持つとともに、世界各地でも神話や信仰の対象として広く伝承の残る伝説の生物です。過去には世界遺産・高野山の西光寺の寺宝である人魚のミイラが全国で初めて県指定の有形民俗文化財として指定されています。また鹿児島県奄美大島の原野農芸博物館に収蔵されている人魚のミイラについてX線CTを用いて調査した際には、全体は魚の骨や皮、竹、紙、木材などを組み合わせて作られた江戸時代の精巧な工芸品であることがわかっています。

円珠院に眠る「人魚のミイラ」は、『人魚干物』と書かれた書きつけと共にきわめて良好な状態で保管されており、体長は30cmほど。歯や爪もあり、下半身にはうろこもみられます。

■倉敷芸術科学大学について

「アート（芸術）」と「サイエンス（科学）」を冠する日本で唯一の大学として、21世紀型の教育として世界的に注目されるSTEAM教育を早くから実践する大学です。「知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材の育成」をミッションとして、現在、全学的に独自の「アート&サイエンス教育（A&S教育）」への転換を図っています。これまでの知識習得型学習からPBL（プロジェクト/プロブレム・ベースト・ラーニング）に重点を移し、デザイン思考やアート思考、教科横断型の授業や、見る、聞く、触れるなどの五感を使いながら、発見・実感を得る学びなどを導入し、機能性や論理性だけでなく感性や直感も重視した教育を行います。ウェブサイト <https://www.kusa.ac.jp/>

【本リリースに関するお問い合わせ】

本件のお問い合わせは
取材申込・お問合せフォームから
ご連絡ください。

<https://onl.sc/BEdXcrD>



（担当：健康科学科 加藤）